

松ぼっくり

◆国松石材株式会社

発行所/国松石材株式会社

本社 福岡市博多区下呉服町8-35

営業本部 粕屋郡志免町南里11-5

TEL 092-957-3500/FAX 092-957-3505

呉服町 福岡市博多区中呉服町6-1善導ビル1F

ギャラリー TEL 092-291-2454/FAX 092-291-2456

墓石ガーデン 福岡市東区香椎472-3(三日月山霊園下)

TEL 092-672-7257/FAX 092-672-7258

工場 福岡市東区松田3-16-12

TEL 092-629-1189/FAX 092-629-2043

国松石材ホームページ <http://www.kunimatu.com>

2004年 秋号

不老長寿



お願い事をするとき、皆様は、どんな事をお願いしますか?「家内安全」「縁結び」「宝くじが当たりますように」などなどいろいろありますが、やはり、一番は「健康で長生きできますように」でしょう。

今から二千年ほど前、広い中国を「秦」という国名で、初めて統一した始皇帝という人がいました。始皇帝は、わずか十

三歳で即位し、三十六歳で中国全体を統一しました。

しかし、権力者の宿命でしょうか、晩年は不老長寿の夢を追い、その薬を探することに、莫大なお金をつぎ込みました。それは秦の国を滅亡させるほどだったといわれています。家来に命じてあちこちに薬を探しに行かせましたが、どこを探しても不老長寿の薬はみつきりませんでした。始皇帝は、望みがかなうことなく、五十歳で亡くなってしまいました。その後の中国の皇帝も不老長寿の夢を捨てきれず、いろいろと薬を作らせていたようです。唐の時代には「丹薬」と呼ば

れる不老長寿の薬があったようですが、その成分は、ヒ素、硫化水銀といった猛毒で、とても服用できるものではありません。そんな薬を、歴代皇帝たちは不老長寿を夢みて、せっせと服用していたのでした。二十代いた唐の皇帝のうち、六人も皇帝が、この薬による中毒によって亡くなったという記録もあります。

さて、日本には湧き水を飲んで、三百歳の長寿を得たといわれる人物がいます。三韓征伐の功臣として称えられている武内宿禰です。

武内宿禰は、第八代孝元天皇のひ孫とされ、第十二代景行天皇から、日本最大の前方後円墳でもおなじみの第十六代仁徳天皇まで、五代の天皇に仕えました。第十四代仲哀天皇の時代、熊曾討伐のため、天皇と神功皇后は香椎に滞在しました。お供をしていた武内宿禰も住居を構え、館近くの湧き水を汲み、天皇皇后に献上する御飯を調えました。また、自らもこの水を食事の支度や、酒造りに用いたと言われています。



▲武内神社
武内宿禰を御祭神とした神社
御利益はもちろん延命長寿



▲御神木綾杉
神功皇后が三韓征伐に使用した三つの武具を埋めた上に鎮護国家を祈って植えた杉の小枝が育ち、綾杉になったと言われています。

この水こそが「不老水」と言われ、武内宿禰に長寿をもたらした伝説の水です。

「御飯の水」「老の水」とも呼ばれていました。天平宝字四年(七六〇年)この井戸を補修した際「不老水」と名付けられました。

この水は、長い間治らない病気や持病を取り除き、寿命を延ばす霊力があると伝えられ、天平神護元年(七六五年)以来、綾杉の葉を添えて朝廷に奉獻せられてきたという由緒ある名水です。

武内宿禰の御霊が宿った「不老水」は、千八百年経った今も滾滾と湧き出ています。

取材中、訪れた人に話を聞いてみると「この水はおいしいですよ。一週間に一度汲みに来て、お茶やコーヒーを入れる時に使います。三百歳まで生きますよ。アハハハハ。」とのこと。

また、境内の売店では香椎宮敬神婦人会が、不老水を使って作った甘酒が売られており、香椎宮の名物になっています。冷やし甘酒をいただきましたが、すっきりとした甘さで爽やかな味でした。

世界一の長寿国である日本、元気がいいお年寄りがたくさんおられます。長寿の秘訣は人それぞれあるようですが、共通して言えるのは、せかせかしないで、心ゆったりと過ごすこと。

昔からいわれているように、
気が長く心は丸く、
立てず

己小さく人大きく、
口慎みて

を心掛ければ、きっと

命 長かれ。

となるでしょう。

取材ご協力ありがとうございました。



香椎宮

福岡市東区香椎4-16-1
TEL 092-681-1001

アクセス

JR九州本線「香椎駅」より徒歩10分
JR香椎線「香椎神宮駅」より徒歩3分
西鉄宮地岳線「香椎宮前駅」より徒歩10分
西鉄バス「香椎宮前」より徒歩1分

不老水へは香椎宮本殿より徒歩5分
開門時間: 午前10時～午後3時



地元の人々に愛されている不老水。さっぱりとした柔らかな味です。



◀「不老水」は昭和60年に、名水百選(環境庁)に認定されています。



甘酒は1杯200円
アルコールは入っていませんので車でも安心です。



祠の中に小さな井戸があり柄杓で汲み上げるようになっています。伝説の霊水です。飲み深くまた有難くいただきます。



線香

お墓やお仏壇のお参りの際に、必ずお供えするのが線香です。普段、何気なく焚いている線香にはどのような意味があるのでしょうか。

線香の歴史

日本での線香の歴史は、聖徳太子の時代、推古天皇三年（五九三年）に、淡路島へ香木が漂着したと日本書紀に書かれていることに始まります。その後、各種の香木が中国大陸から入ってきました。唐の鑑真和上（六八八年〜七六三年）は、仏典とともに香木と薬をたくさん携えて、各種の香料を練り合わせて作る薫物の製法を伝えたといわれています。十六世紀末の天正年間に日本で現在使用されている線香の製法が伝わりました。この香木は、高価で貴重であったため、少しでも香りが長持ちするようにと工夫がなされ、使いやすさもあって家庭や寺院に普及していったのです。

この細長い線香の起源は、現在も中国や台湾で使用されている竹を芯とした竹芯香に始まるとされています。

線香の功德

葬儀や法事で行われる焼香は、釈尊の存生のころから続けられてきた儀式であると伝えられ、線香は、仏様の使い、仏様の食事ともいわれています。それは、線香の香りが仏様の慈悲心と同じで、周囲の区別なく無限に広がる徳をもっているからです。また、線香は良い香りを放って、時と所の不浄をすべて清める徳をもっています。ですから、身体や心のけがれをほらい、清浄な心で仏様にお参りする為に線香を焚くのです。

線香の供え方

線香の供え方は、まずローソクに火を点し、次に線香をローソクの火で点火し、香炉に立てます。

線香の火は、口で吹き消すのではなく、手であおいで消すようにします。仏教では、人間の口は悪業を積みやすくけがれやすいものなので、仏様に供えた火を消すわけにはいかないからです。ローソクの火を消す場合も同じです。

お供えする線香の本数は、一般的には一〜二本ですが、正式には各宗派で異なります。

浄土宗、臨済宗、曹洞宗、日蓮宗は一本、天台宗と真言宗は三本です。これは、身・口・意を清める意味があります。香炉に立てる時は、まじめないで一本ずつ立てます。真宗大谷派、浄土真宗本願寺派、日蓮正宗は線香を立てず、香炉に横にして燃香します。

線香の香りをかぐと心が落ち着くのは、心のけがれが払われているからなのでしょう。香りの良いお線香を持ってお墓参りに出かけませんか。

【参考文献】

仏事の基礎知識 藤井正雄著



